

神に敵対し、その神に従う私達に敵対する悪魔（サタン＝ヘブル語で「敵対者」）は、私達が、全能の神に祈る事もせず、忙しく活動する事を恐れないだろう。祈りのない活動は、神の為の実を結ばせることが出来ず、忙しく活動する者達の心、精神、体をすり減らすことを知っているから。

しかし、私達が、自らの弱さを真に自覚し、その分、全能の神に拠り頼み祈りつつ、御心にかなう事をするなら、悪魔は、嫌がる。なぜなら、私達が、全能の神に祈る時、悪魔より強く偉大な神が働かれる業となるからである。

I 七つ目の最後の武具。祈り。

「すべての祈り（原語：プロセウケー、祈り、祈祷、礼拝と崇敬）と願い（原語：デエーシス、願い、祈願）を用いて（によって）」。

「願い」の前に「祈り（神との人格的な交わり）」がある意味

→「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい」ピリピ4：6。

「祈り」と「願い」の順序が大切。エペソ6：18もピリピ4：6も同じ順序。

まず、「祈り（プロセウケー）」は、礼拝と崇敬を表している。悪魔は、私達が真の神を礼拝する事を最も嫌う。

悪魔は、自分を神の様に礼拝させようとする→イエス様への悪魔の誘惑＝「もしひれ伏して私（悪魔）を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう」（マタイ4：9）。

自分の願望を告げる前に、まず、礼拝と崇敬、神を崇める祈りをする。問題や悩みにだけ心の目が向かないように、すべてを支配しておられる神に目を向ける。

「信仰の創始者であり完成者であるイエス（神）から、目を離さないでいなさい（原語のニュアンス：他のものから目を離して、イエスに目を集中しなさい、しっかり見なさいの意）」ヘブル12：2。

問題や状況に心騒ぎ、振り回されないように、まず、神の前に静まる。あせらず、間を置く。

願い事だけに終始せず、神と人格的に向き合う。自分が神の臨在される場にいる事を認め、神を崇める。

次の「願い」の前に、ピリピ4：6では、「感謝をもって」が加えられている。

先に願い事だけ祈る時、神に心の目が向くのではなく、願い事（問題、悩み）に心の目が向き易い。

しかし、願いの前に、神を礼拝し、静まり、神の恵みを数え感謝をする時、私達の心の目が神に向く。

祈りの次に「願い」→神を神として礼拝し、礼拝と賛美、感謝を表した後に、神に具体的な願いを告げる事ができる。

優等生ぶらないで、正直に願いを祈り、悩みもすべて神の前に注ぎ出そう！

神は正直な祈りを喜ばれる霊的な親。

「どんなときにも神に信頼せよ。あなたがたの心を 神の御前に注ぎ出せ。」詩篇62：8。

II 「どんなときにも御霊によって祈りなさい」エペソ6：18。

「どんなときにも」

→嬉しい時も悲しい時も。順調な時も逆境の時、何をやっても上手く行かない時も。

穏やかな時も嵐、試練の時も。楽しい時も苦しい時も。穏やかな時も病める時も。

毎朝、ディボーション（神との交わり）の時も、何かを始める前、最中、後も。

難しい仕事、勉強中も、運転時も、心の中で（目は開けて）。必要なものを探し求める時も。

悪魔が策略をもって神を見失わせようとする時にも、神に信頼して祈ろう。

「御霊によって」

→悪魔は、私達が全能の神に祈り、全能の神が働かれる事を最も嫌う。だから私達が、神に祈る事を悪魔は邪魔する。そこに霊的な戦いがある。

また私たち自身にも弱さがある。自分では祈りもできないくらい弱る事がある。

だから→「御霊によって」とある。

ハレルヤ！

悪魔より強い偉大なお方である御霊なる神は、弱さを持つ私達の祈りを助け導いて下さる。

だから、「御霊に満たされなさい」5：18が鍵。

「御霊も、弱い私達を助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなしてくださるのです」ローマ8：26。

「聖霊によって祈りなさい」ユダ20。

Ⅲ 「そのために、目を覚ましていて（原語：目を覚ましている、注意している、心を配っている）」。

1. 悪魔は、クリスチャンが油断して祈らないようにさせる。

「気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたがたは知らないからです」

マルコ13：33。

「人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈っていなさい」ルカ21：36。

上手く行っているように見える時にも、必要が満たされている時にも油断せずに祈りたい。目を覚まし、注意していないと悪魔が誘惑して、「祈らなくても、結構やれる」と油断させる。いつも、しっかり自覚したい。祈り（神に抛り頼む）失くして、私達は、神の喜ばれる事は、何一つ出来ない事を！

2. 「すべての聖徒のために」。

視野と関心の広いとりなしの祈り、願い。

個人的に知っている聖徒、主にある兄弟姉妹の為、個人的に会った事のない聖徒、主にある兄弟姉妹の為に、あらゆる国の、あらゆる教派の、あらゆる境遇の、あらゆる年齢層や社会層の聖徒達を思いやり、とりなしの祈りをする。

※「祈りのしおり」やJ E C Aのハンドブック（ある年配の本州の方のお葉書に励まされる！宗教法人化の為の時からも、祈られていた。祈られる事は大きな支え）、ノースフォーラムやOMFの祈りのカレンダーや他の物、祈りのノート等を用いて。

今も、迫害されている世界中のクリスチャンの為に祈りたい。私達も、知っている人に祈られ、知らない会った事のない人々からも祈られている、支えられている。

感謝！

それゆえに、悪魔の誘惑がある中でも、ここまで支えられ守られた。

感謝！

すべては、神のおかげ、神が備えられた兄弟姉妹の執り成しの祈り（を通して働かれる神）の支えおかげ。

3. 「忍耐の限りを尽くして（原語：すべての根気よさで、根気の限りを尽くして）」。

悪魔は、私達の根気、忍耐を邪魔して、とりなしの祈りを止めさせようとする。しかし、内住の助け主である御霊なる神に抛り頼み、忍耐、根気をいただき、あきらめず、全能の神を信頼して祈り続けよう。

※あるクリスチャンは、ある人の救いの為に祈り続けた。しかし、そのクリスチャンが生きている間には、その人は主を信じなかった。しかし、そのクリスチャンが天国に召された後、その祈られていた人は主を信じたのです。これは、大きな励ましです。

祈り続ける事は無駄にはならない。神の時に実を結ぶ！

御霊は、みことばを私達の心に示し励まされる→「いつでも祈るべきで、失望してはいけない」

ルカ18：1